

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A 棟)

事業所番号	0270201627		
法人名	いかり商事株式会社		
事業所名	グループホームアップルハウス		
所在地	青森県弘前市境関字亥ノ宮29-1		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、その人の人格を尊重し、安心で安全な生活を送ることができるように支援している。個人のペースに合わせ、個人の求めに応じた関係を築き、共に生活を送るように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は国道に近く、さらに商業区域に近い場所に立地している。生きがいを持って生活できるように『住み慣れた地域の中で、やすらぎと暖かさの中で、その人らしく生きる』という理念に基づくサービスを旨とし、利用者の希望を尊重し、馴染みの友達の訪問を快く受け入れ、生活の環境の継続を大切に、変わらない社会性の維持に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、職員全体で理解し、実践に活かしている。	利用者がこれまでの家庭生活を延長し、生きがいを持って生活できるように『住み慣れた地域の中で、やすらぎと暖かさの中で、その人らしく生きる』という理念に基づくサービスを旨とし、理念を施設内やパンフレットに明記し、内外への周知とその実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議や行事の際には、第三者委員、地域協力委員等に参加して頂いている。	広報誌等を利用し、近隣の方々がいつでも見学や相談に応じられるような対応を心がけている。老人クラブ主催の行事等に参加したり、近隣の保育園や小学生との交流も盛んに行われ、地域の一員として積極的に信頼関係の構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々がいつでも見学でき、相談に応じることができるようにしている。外部・内部研修で学んだことを共有し、地域の方々が来所の際、伝えるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、現状や要望を伝達し、意見交換を行いながら、サービスの質の向上につなげるようにしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、町内会長、第三者委員、利用者家族、市職員、地域包括支援センター職員の参画を得ている。主にホームから年間の事業計画と自己評価及び外部評価の結果等を説明し、テーマを決めて協議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	パンフレットや機関誌等を配付したり、悩み事の相談、問題解決に協力してもらっている。	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員、もしくは市担当職員が毎回出席しており、ホームのパンフレットや広報誌を役場に配布、設置をしている。さらに、自己評価及び外部評価結果、年間行事予定をお知らせし、サービスに関する助言が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>禁止となり得る行為は十分過ぎる程、理解しているが、現状からすると鍵をかけざるを得ない。拘束と考えられる行為については、ご家族に説明し、納得、了解を得ている。</p> <p>玄関の鍵については、状況に応じて開錠し、職員が付き添うことで対応している。</p>	<p>利用者並びに家族には「運営規程」「利用契約書」「重要事項説明書」等に記述している内容を説明し、身体拘束を原則行わない姿勢で日々のケアを提供している。玄関施錠は利用者の安全を第一に考え、家族の了解のもとで行っており、玄関はタッチ式の自動扉で内側のスイッチが高い位置にある。近隣住民は施設の機能や認知症についての理解をしており、過去に徘徊の情報協力を得た例がある。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにし、虐待が発生しないよう努めている。また、内部研修を通じ、繰り返し虐待防止について学んでいる。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>内部、外部研修に参加し、学んでいる。支援利用が必要と思われる入居者の方はいるが、関係者との話し合いは出来ていない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明等で詳しく説明している。また、意見を出しやすいよう、職員の雰囲気作りを心掛けている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情解決相談窓口、責任者、担当者置き、ご意見箱も設置している。苦情や意見等に関して、随時話し合うようにしている。</p>	<p>利用者から苦情、要望などが出された際にはその都度口頭で対応し、申し送りノートに記載し職員全員で周知徹底している。家族がホームに来た時のために「ご様子シート」を作成して報告し、毎月利用料請求時に施設での暮らしぶり、医院受診状況、金銭管理の収支記録等を家族に報告している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、悩みや相談を聞き、よりよい運営につながるよう取り組んでいる。	利用者情報は、毎日の業務引継ぎ時に口頭と送りノートにより伝えられ、管理者と意見を加えながらより良いサービスにつなげている。また、定期的に行う全体会議でサービスの質の向上に向けての話し合いも行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理な勤務体制にならないよう配慮し、各自の個性が表出しやすい環境整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や研修内容を考慮し、各所の研修に参加している。また、資格取得に関わる情報の掲示を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているため、同業者と交流する機会があり、サービスの質の向上につなげている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や生活歴の把握に努め、安心し、納得した状況でサービスが開始できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	経済状況、家族状況等、プライバシーに配慮しながら、相談内容を理解し、必要に応じた情報の提示を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多岐にわたるニーズの中から、主訴を見極め、支援できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活リズム、パターンを理解し、柔軟な対応をしている。また、求めに応じた関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別カンファレンスや面会を通じ協力依頼や互いの悩みを話せる関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、支援に努めている。	利用者のこれまでの生活スタイルを尊重し、共同生活における作業を通じて利用者の生活意欲を高めることにも配慮している。利用者の希望を尊重し、馴染みの友達の訪問を快く受け入れ、地域の方との交流を通じて社会性の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう座席の位置に配慮したり、入居者同士が支えあうことができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談を受けたり、情報提供等をし、フォローできるように努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、ご本人の希望、意向に添うことができるようにしている。	利用者の入居時に詳細なアセスメントシートを作成し、利用者の思い、生きがい等については家族にも照会しながら情報収集し、日常生活の中で利用者の新たな希望や意向を把握するよう努めている。また、全職員統一したサービスを提供するため特定の職員の業務負担が過重とならないよう、管理者と職員間で利用者情報の共有の徹底に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りや、団らん時間で昔のことを話せるような話題提供をし、職員全員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送り、カンファレンスを通し、職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通じて、ご本人のQOLの向上を目指し、介護計画を作成している。	介護計画の作成は、利用者、家族からの意見なども参考にし、必要に応じて、受診時の医師からのアドバイスなどを反映させ、職員による一方的なものとならないようにしている。計画は3ヶ月毎に見直し、利用者のこれまでの状況と評価結果についても記録し、提供サービスについて家族の同意を得て行っている。利用者の身体状況に変化がある時や、利用者や家族等から希望があった際には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の見直し、カンファレンスを通じて情報を提供し、支援方法の確立、介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、一人ひとりの暮らしが安全で豊かになるように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った医療機関を受診できるようにしている。また、ご家族の協力のもと、適切な医療を受けられるようにしている。	入居前と入居後の受診経過を記録し、状況を把握している。一人で4科など複数受診する時は家族の協力を得ながらすすめている。また、受診の際にはホームで見られた症状や観察も添えて報告し、受診結果等は、医療連携ノートを活用し家族への連絡、報告を密にしている。また、利用者の認知症の進行の予防、改善にも努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の看護師訪問時に情報の伝達を行ったり、いつでも相談できる体制をとり、適切でかつ早期に対応できるよう連携を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に医師や看護師、家族も含め、退院に向けた話し合いや今後に向けての話し合いをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応のマニュアルにもとづき、ホームで対応できる事、困難なことも含めて十分説明し、主治医の指示を仰ぎながら、支援に取り組んでいる。	利用者の重度化や終末期における取扱規定はない。医療機関への情報提供、引継ぎなどをしながら重度化・終末期に至った際の不安軽減のためのホームの対応に係る指針は作成されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や救命講習への参加により、急変時に対応できるよう備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防犯グッズの準備、管理をし、定期的に避難訓練を行っている。また、地域協力委員の協力が得られるようにしている。	災害マニュアルを作成し、昼夜を想定した火災発生時の避難訓練が行われ、全員で実施している。各ユニット毎に必要な物は非常災害袋を準備し、食材は賞味期限前に入れ替えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの理解度に配慮しながら、尊厳のある言葉遣いや声掛けをしている。	職員の会話は穏やかで、言動を否定したり拒否するような会話は無い。職員の守秘義務や個人情報の取り扱い等についてパンフレット・利用契約書・重要事項説明書等に明記し、さらにホーム内にも掲示し、遵守に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定できるよう選択肢を示し、希望や意向が表せるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、個々のペースに合わせているが、予約受診等で、職員の都合を優先せざるを得ない場合は、理由を説明し、納得、了解を得るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着用出来るよう声掛けしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむために、食材の形状に気を配ったり、盛り付けの手伝いを依頼している。また、後片付けの参加も依頼している。	カロリー計算を行い、利用者の栄養面を考慮しながら、利用者に合わせて調理を工夫している。調理の下ごしらえや後片付けは、利用者と職員と一緒にしている。朝昼夜食共に利用者と一緒になって職員が食べることにより、利用者をさりげなく支援し、和やかな雰囲気のもとで食事が摂られている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の摂取量をチェックし、ケース記録に記載している。また、必要に応じ、水分の提供、補食を行い、栄養状態の安定を図っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持はもちろん、感染症予防のためにも、口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時トイレ誘導を行い、排泄パターンを把握している。失敗や汚染時は、プライバシーに配慮し、素早く交換している。	利用者の排泄状況はきめ細かく記録され、排泄パターンは把握されており、事前にさりげなくトイレ誘導が行われている。利用者の失禁やおむつ交換の際には、利用者の尊厳保持にも配慮されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整や水分摂取量、乳製品摂取、腹部マッサージ等により、便秘予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>決まった曜日、時間帯の中で、個人のタイミングに合わせて対応している。入浴日以外でも必要に応じて対応している。</p>	<p>入浴は基本的に週2回となっており、主に午前中となっているが利用者の希望、状態によって、都度柔軟な対応をしている。入浴を拒否する利用者については、言葉がけに工夫しながら入浴を促している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>短時間の休憩を設け、浮腫を軽減し、疲労感を感じさせないようにしている。安眠を確保する為に、照明の調整や環境整備を行っている。</p>			
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師や薬剤師からの指示を受け確実な服薬介助を行っている。</p>			
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々に役割を設け、手伝って頂いたあとには、感謝の意を表し、喜びや張り合いのある日々を過ごせるようにしている。</p>			
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出支援は家族の協力のもとに行っている。戸外に出掛ける事が困難になってきている入居者に対しては、窓を開けて外気浴、日光浴を促し、気分転換を図っている。</p>	<p>日頃から行きたいところの把握に努め、天気の良い日はできるだけ外出し、散歩することにより利用者がホームに引きこもらないよう努めている。利用者の希望によってはドライブや買い物にも応じている。利用者の体調に配慮し、外出が心身の負担にならないよう努めている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人の金銭管理の大切さは、十分理解しているが、現状では困難である為、支援出来ていない。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯を配慮し、ご家族の了解を得ながら、支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者が理解しやすいような目印や色をつけている。温度、湿度調整を行い、居心地良く過ごせるよう工夫している。	テレビ等も適度な音量で利用者はゆっくり寛いでいる。施設内の温度も定期的に記録し、利用者の過ごしやすい環境作りに努めている。玄関や出窓には観葉植物や季節の花々がさりげなく飾られ季節を感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置に工夫し、一人で外を眺めたり、数名で談話しながら、テレビ視聴できるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や雑誌、小説、テーブルなど、使い慣れて馴染みのあるものを持参し、居心地良く、安心して過ごせるようにしている。	利用者の居室には、馴染みの品が持ちこまれ、安らぎと安心できる雰囲気になるよう配慮している。利用者それぞれの居室には子供たちの手製の飾りを壁にかけたり、一人ひとりの思いに応じた居室づくりが行われている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活を送ることができるように、目印や貼り紙を貼るなどしている。			